

持続可能な開発のための ガバナンス

Carbon Challenge Kawasaki Eco-Strategy for Sustainable Society

川崎市環境局
担当理事
牧 葉子

環境技術情報センター所長事務取扱

2011/7/27

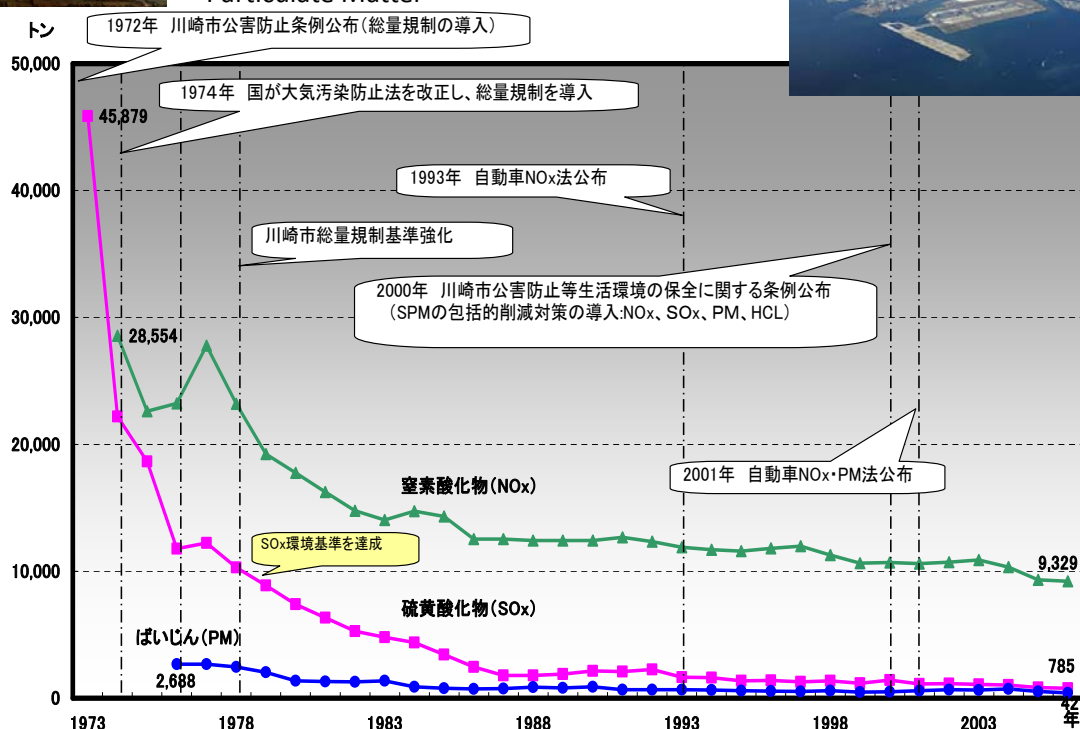
ISAP2011 Session3

1



硫黄酸化物、窒素酸化物、 ばいじんの推移

Changes in Sulfur Oxide, Nitrogen Oxide,
Particulate Matter



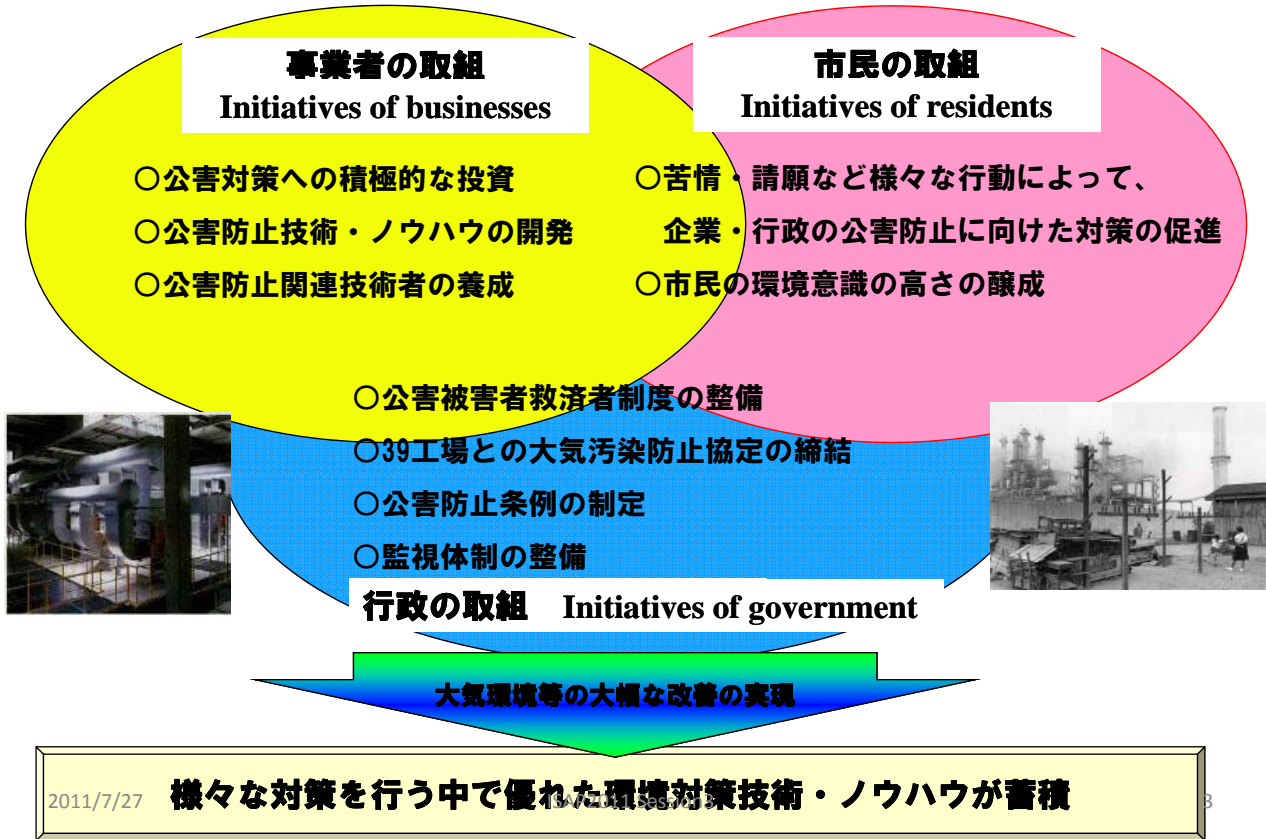
2011/7/27

工場・事業場からの大気汚染物質排出量推移(全市)

2

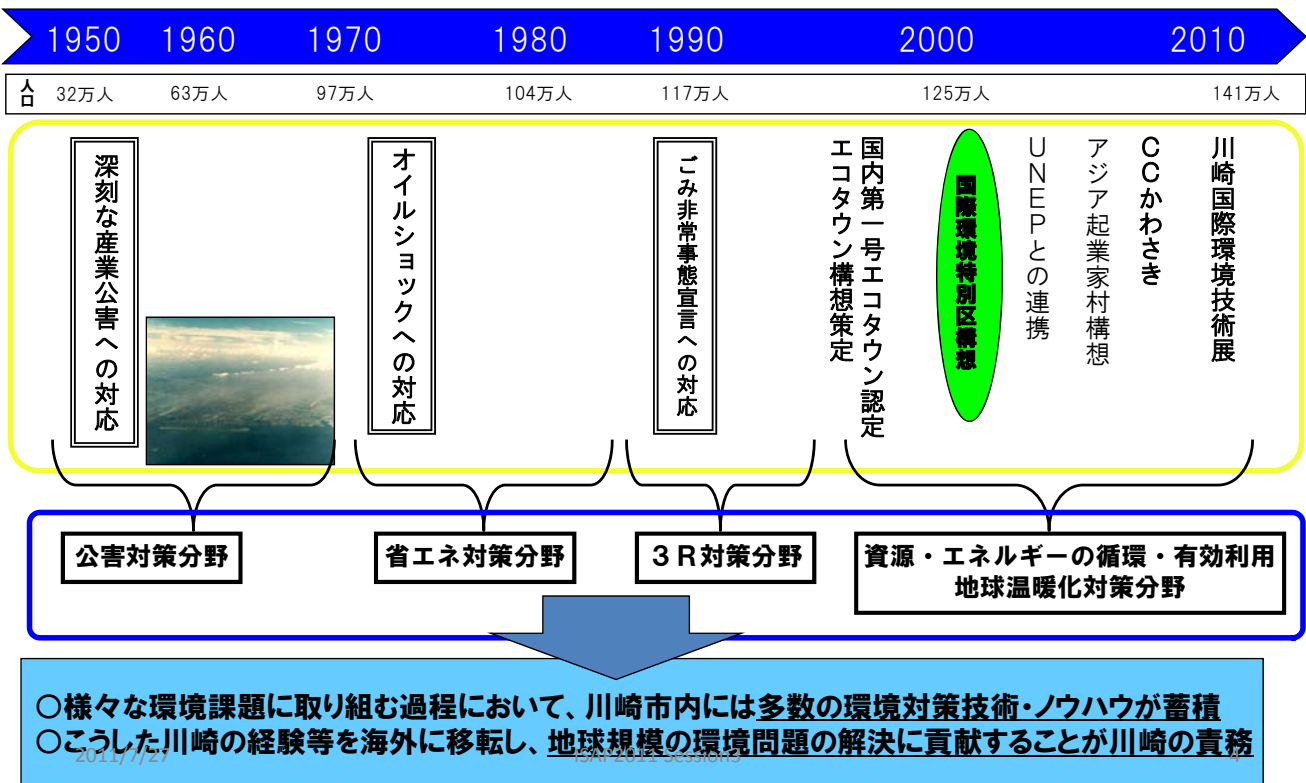
公害対策で培われた技術・ノウハウ

Technology and Know-how Gained through Antipollution Measures



川崎の果たすべき役割

The Role Kawasaki Should Play

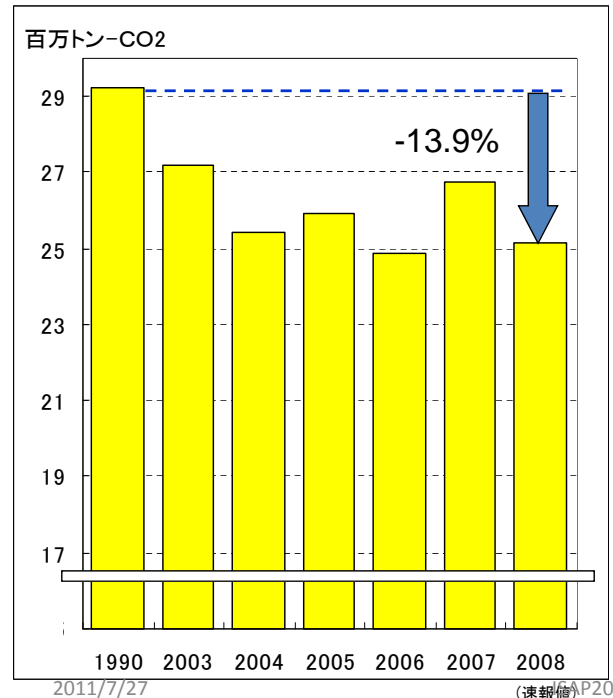


研究開発機能の集積 Integration of Research and Development

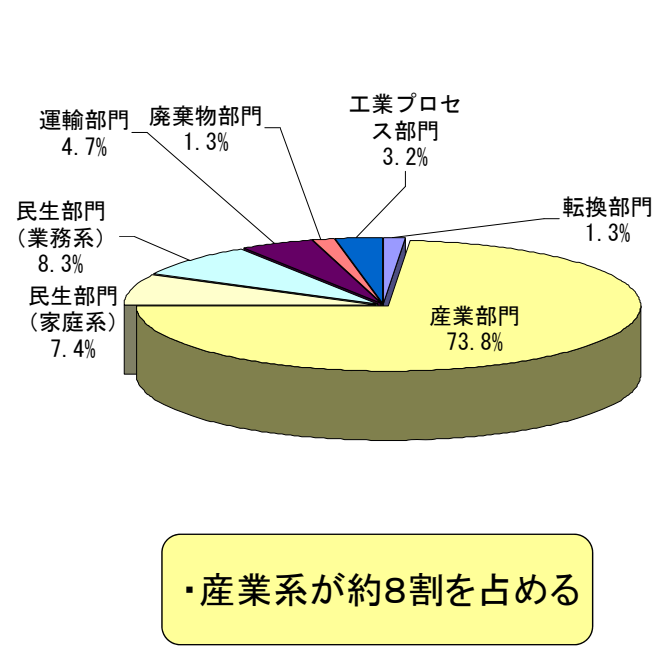


川崎市域における温室効果ガス排出量 GHG Emissions in Kawasaki City

○川崎市の温室効果ガス排出状況
Shift of the quantity of GHG emissions



○川崎市の二酸化炭素排出量の部門別内訳
Composition ratio of CO2 by sector



川崎市のこれまでの取組

Kawasaki City's Efforts to Cope with Global Warming to Date

川崎市地球温暖化対策地域推進計画に基づく取組

2004年3月策定

川崎市地球温暖化対策地域推進計画概要

市域の地球温暖化対策の計画

川崎市新エネルギービジョン 1997年策定、2005年改定

市域の新エネルギー分野の計画

川崎市役所環境管理システム 1998年策定、2006年最終改定

市役所の地球温暖化対策の計画

削減目標	2010年における市域の温室効果ガス排出量を1990年レベルに比べ6%削減する
目標達成に向けた方策	市民・事業者・行政の各主体の取組についてライフスタイル、交通、みどり、廃棄物、エネルギーの5つのテーマに関する行動計画を策定

カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略(CCかわさき)に基づく取組

2008年2月発表

- ①川崎の特徴・強みを活かした環境対策の推進
- ②環境技術による国際貢献の推進
- ③多様な主体の協働によるCO2削減の取組の推進

基本的考え方

「環境」と「経済」の調和と好循環を推進し、持続可能な社会を地球規模で実現するため、全市を挙げて取組む

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例の策定

2009年12月策定

2010年4月施行

全市的に地球温暖化対策を推進していく「地球温暖化対策のルール」として策定

2011/7/27

ISAP2011 Session3

7

地球温暖化対策推進条例の構成

Component of the Ordinance of Promotion on Global Warming Countermeasures

●第1章 総則(第1条～第5条)

目的、定義、責務、協働

●第2章 地球温暖化対策に関する施策等

- ◇第1節 地球温暖化対策推進基本計画等(第6条・第7条)
- ◇第2節 事業活動に係る地球温暖化対策(第8条～第14条)
- ◇第3節 開発事業等に係る地球温暖化対策(第15条～第21条)
- ◇第4節 再生可能エネルギー源の利用による地球温暖化対策等(第22条・第23条)
- ◇第5節 日常生活等における地球温暖化対策(第24条～第28条)
- ◇第6節 環境技術による国際貢献の推進等(第29条・第30条)

●第3章 地球温暖化対策の推進のための体制整備

地球温暖化防止活動推進員(第31条)
地球温暖化防止活動推進センター(第32条)

●第4章 雑則(第33条～第37条)

立入調査、勧告、事実の公表、表彰、委任

推進体制及び進行管理

Promotion system & Monitoring system

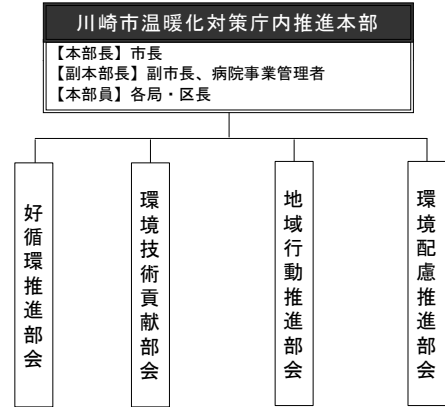
推進体制

Promotion system

【地域住民等との連携体制】

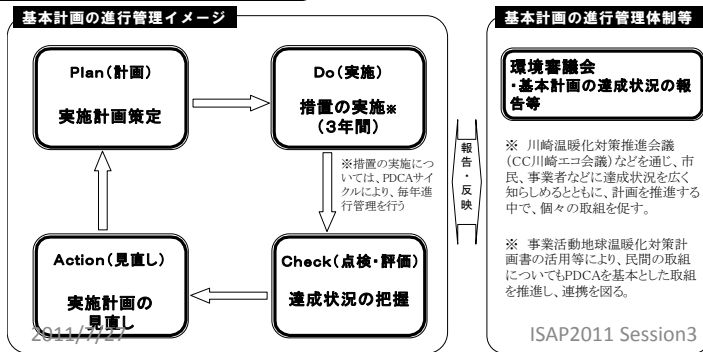
- 地域地球温暖化防止活動推進センター
- 地球温暖化防止活動推進員
- かわさき地球温暖化対策推進協議会
- 川崎温暖化対策推進会議(CCかわさきエコ会議)

【庁内の推進体制】



進行管理

Promotion system



9

殿町3丁目地区

羽田国際空港と神奈川口構想

Internationalization of Haneda Airport and the Kanagawa Gateway Concept



2011/7/27

川崎市環境総合研究所の整備

Toward Establishment of the Kawasaki Environment Research Institute

I 環境総合研究所の整備に向けた取組

- ・市では、公害研究所、公害監視センター、環境技術情報センターの3つの事業所を統合し、国連環境計画(UNEP)、国立環境研究所、大学や環境技術を有する企業との連携を図りながら、環境の総合的な研究を行う拠点として、環境総合研究所を整備します。
- ・2008年には、環境総合研究所の先駆けとして、環境技術情報センターを開設しました。以降、川崎の優れた環境技術情報の収集・発信や川崎のフィールドを活かした産学公民連携共同研究、海外からの研修の受入などに取り組んでいます。

II 環境総合研究所に導入する5つの機能

<導入機能1>「都市と産業の共生」を目指した研究(産学公民連携共同研究)

- ・温室効果ガス排出量の推計手法、地球温暖化対策の指標開発
- ・低炭素社会や循環型社会の構築に向けた研究
- ・国立環境研究所等との共同研究

<導入機能2>川崎の優れた環境技術の移転による国際施策推進

- ・国連環境計画(UNEP)との連携事業
- ・その他国際機関と連携した事業
- ・海外からの視察・研修受入

<導入機能3>川崎の優れた環境技術情報の収集・発信

- ・川崎の環境への取組や経験の体系化、アーカイブ
- ・分かりやすい情報発信のための分析・加工
- ・ICTなどを活用して、国内外と環境技術情報を収集・発信

<導入機能4>さらなる環境改善と環境汚染の未然防止のための監視・調査・研究

- ・環境保全に関する常時監視・調査・研究
- ・環境リスクに関する調査・研究
- ・汚染物質の漏出・漏洩時における緊急対応
- ・測定・分析における精度管理
- ・環境モニタリング

<導入機能5>多様な主体と連携した環境教育・学習

- ・理化学的な環境教育・学習プログラムの開発
- ・多様な環境活動との連携



III 殿町3丁目地区での環境総合研究所の整備

<殿町3丁目地区>

・殿町3丁目地区は、2010年10月に再拡張・国際化が予定されている羽田空港の対岸に位置しています。

・環境やライフサイエンス分野の高度な先端技術を有する大学・研究機関・企業等の集積や、臨空関連産業等の集積を目標としている約40haのエリアです。

・市は2010年4月に1.3haの用地を取得しました。現在、地区の核となる研究開発施設の整備を進めています。



<(仮称)産学公民連携研究センターの整備>

・(仮称)産学公民連携研究センターは、殿町3丁目地区の研究開発拠点の拠点形成を促進する中核施設として整備します。環境総合研究所のほか、(仮称)健康安全研究センター、企業・大学等の研究開発室などで構成する複合施設です。

<環境総合研究所の整備>

・環境総合研究所は、殿町3丁目地区に整備する(仮称)産学公民連携研究センター内に設置します。

・環境総合研究所は、環境関連産業や研究機関の集積や研究者の交流による環境分野における研究開発の促進など、川崎臨海部に相乗効果・波及効果を生み出す取組を推進します。

・2012年度の運営開始を目指しています。

環境技術による国際貢献の推進

Promote International Contribution through Environmental Technology

[国連グローバル・コンパクト、かわさきコンパクトの推進]

Promote United Nations Global Compact, Kawasaki Compact

(国連グローバル・コンパクト) ■ United Nations Global Compact

- ・国際連合が提唱する企業・団体の自主行動原則
- ・人権、労働、環境、腐敗防止の4分野で世界的に確立された10原則を支持し、実践するように呼びかけるプログラム
- ・川崎市は、都市として日本で初めてこのプログラムに参加

(かわさきコンパクト) ■ Kawasaki Compact

- ・グローバルコンパクトの市内展開として、市内でこの理念を追求するかわさきコンパクトを推進